第３回　足羽川桜づつみ協議会　議事要旨

開催日時　：　平成１９年６月２６日（火）午後１：３０～３：３０
開催場所　：　福井市地域交流プラザ　６階　研修室６０１ＢＣ
出席委員　：　薬袋奈美子　（福井大学　建築建設工学科　講師）
今井三千穂　（総合グリーンセンター、樹木医）
内藤　　汎　（福井市都市景観審議会　委員、樹木医）
朝倉　邦真　((社)福井青年会議所）
石川　裕夏　（福井商工会議所　青年部）
中山　重成　（桜並木を守る会　代表）
橋本　　浩　((財)福井観光コンベンション協会）
平井　博政　（NPO 法人ドラゴンリバー交流会）
上村　祥代　（一般公募：福井大学）
荒井　證次　（足羽子ども会育成会　会長）
藤井富士雄　（足羽エコ探検隊　隊長）
安本　暢男　（福井南ロータリークラブ）
吉岡　正博　（スリーA クラブ）
（欠席）松下　幸男　（一般公募：毛矢五の組自治会長）

１．開会
２．議事
・前回協議会以降の経過報告について
・植栽・施設計画の検討について
・維持管理計画の検討について
事　務　局：（資料－１～３の説明）

【施設計画について】
藤 井 委 員：擁壁は模型のようにツタを絡ませると、壁面の圧迫感が和らいで良い。堤防上の舗装は、単なるアスファルトでは暗く貧弱な感じがするので、イメージを高める舗装も考えてほしい。また、トイレの看板と合わせて、観光客に桜 100 選を知らせる看板を設置するのも良い。撤去する桜を材料にして、あまり金をかけずに見栄えの良い看板を作成してはどうか。
薬袋委員長：桜 100 選の看板については、細かい面に配慮し、ベンチ等の施設と合わせて配置してもらうことで、事務局に一任する。

【転落防止対策について】
藤 井 委 員：フェンスは、除雪で傷めると補修費がかかり見た目も悪い。
今 井 委 員：転落防止施設の設置位置は、桜の際が良い。法尻では擁壁上に雪を積上げた場合に、柵や植え込みが傷んでしまう恐れがある。堤防上の歩行者がつまずいたとき、フォ

ローとなるような低い植え込みが良い。

事　務　局：フェンスは景観上あまり良くないので、基本的には植え込みで考えている。植え込みは、位置を特定せずに斜面の色々なところに植えて変化をつけても良い。

中 山 委 員：柵に囲まれた中での桜の観賞は面白くないので、柵はない方が良い。子供連れの人などに、転落しないよう注意してもらえば良い。

吉 岡 委 員：車椅子の人もよく堤防の上を利用しており、若い人がスピードを出して自転車を走らせているのを見ると、危なく感じる。フェンスは景観上悪く、雪の問題もあるので、遊歩道の際からやや下に低木を植える程度が良いと思う。

荒 井 委 員：基準上フェンスを設置する必要がないならば、植栽による対応で良い。なお、除雪の件であるが、擁壁高が 50cm 以上になると、タイヤショベルで雪を跳ね上げることは困難となる。

薬袋委員長：転落防止対策については、フェンスを設置するよりも低木の植栽で危険防止できるように検討してもらい、樹種の選定についても、ゴミ掃除のし易さや景観面等に配慮して頂くということで、事務局に一任する。

【維持管理体制について】

事　務　局

（岩本課長）：市では平成 2 年に日野川桜堤が国交省認証を受けて取り組んでいる。平成 17 年には九頭竜川も認証を受けて、今年 2 月に桜を植栽した。このとき、桜の維持管理については、地元と協議し協定を結び、害虫駆除を市で、それ以外の下草刈りや清掃を地元で実施している。また、日野川の桜堤ではオーナー制を採用し、福井農林高校農友会が寄付を募り、1 本ごとに名前が付いたシダレザクラとソメイヨシノが植栽されている。しかし、世代が代わると個人の管理も難しくなり、現在では市が管理に年間 100 万円程度の持ち出しをしている。桜を管理するには、自分たちの桜だという認識がないと長続きしない。掃除もしたくないのに、きれいな花はあってほしいという人が多い。こういう中でどう取り組んだらよいか意見を伺いたい。例えば地元の自治会連合会という組織の中で管理してもらうのも一つの方法である。足羽川の桜並木が多様性植栽になれば、落花掃除の期間も長くなるなど、管理も多くなることが気がかりである。維持管理には労力とリスクが伴うことを理解いただき、この協議会でＮＰＯの立ち上げ等を検討してもらいたい。

藤 井 委 員：今の時代、行政ばかりに頼るのは良くない。各地区のボランティアの活動をデータベース化して情報発信してもらうと、市民の考え方も変ってくると思う。足羽地区でも昔桜を植えて、今もその桜に愛着を持っている人がいる。そういうボランティアを各地区から集められれば、良い維持管理ができると思う。ひこばえの剪定等も、技術的指導者の協力を得られればボランティアでも可能かと思う。

荒 井 委 員：足羽地区では、足羽小学校の子供を対象に、地球温暖化防止のためのエコ活動を行っている。今年検討したものを来年より身近にできるものから実行する予定である。堤防の維持管理についても、公民館を中心とした足羽地区の活動の中で協力できれば良いと考えている。桜並木の維持管理は、行政も加えた一つの組織を作り上げて、

民間主体の運営で行う方が良いと思う。

藤 井 委 員：福井県の樹木医の数は少ないと聞いているが、維持管理への参加率を高める方法として、例えば樹木医に関心の持てるような活動をするのも良い。

薬袋委員長：単なる桜の維持活動ではなくて、緑に関心のある層を広げ、樹木医を増やす活動をしてはどうかということですね。京都では、地元のことに詳しい人を試験で選んで認定している例もある。本地区でも、桜や足羽川周辺のエキスパートと言える人を、楽しみ半分で育てると、より関心を持ってもらえるかと思う。

藤 井 委 員：子供会の中にもそういう話を持っていき、関心を高める方法もあると思う。

吉 岡 委 員：定年退職した方で興味のある方もおられると思うので、市のシルバー人材センター等を通じて、そういう方を推薦してもらうわけにはいかないか。

藤 井 委 員：個人で興味のある方もいるので、簡単に楽しむことをポイントにしていけば、輪も広がり人も集まってくると思う。

事　務　局

（岩本課長）：市の河川公園もシルバー人材センターに管理を委託しているが、相当な経費を要している。市民が直営で管理する方が経済的である。市が一番困っているのは、新しい桜を植えた場合、育てていく体制をどうしたら良いかである。桜だけを対象とする管理体制づくりは難しいと思うが、NPO などの活動の中で桜の管理もするような方法がないか意見を聞きたい。

平 井 委 員：足羽川では、九頭竜川水系環境団体の 3 団体が、環境保全美化運動を実施している。ドラゴンリバー交流会も、足羽川において、3 月下旬頃に、50 団体、約 1､300 人による一斉清掃活動を実施しており、協同意識を育てる上で役立っている。今の時期はヘビ、蜂、毛虫等の問題があるため、比較的ゴミの発見し易い雪解け時期を選んで実施している。軍手、ゴミ袋、チラシの印刷等、１回に付き 15 万円程度の費用が必要で、準備から世話、清掃後の苦情処理等を行っている。また、足羽川と九頭竜川水系の山に、昨年度は 2､600 本のどんぐりなる木を植樹した。親子で植樹活動に参加した人は、木がきれいな水の源になるという意識が高まったと聞いている。また、足羽川で遊ぼう会、九頭竜川で遊ぼう会では、水生昆虫観察会やゴリ釣り等を行っている。遊びを通じて、入ったらいけない川から親子で一緒に遊べる川にと意識も変化している。桜並木の維持管理も、川に入って遊ぼう会という活動の中で取り組めば、参加し易くなるのではないかと思う。桜並木の保全も足羽川を楽しむ色々な活動の中の一つと考えれば、ボランティアも少しは気持ちが楽になる。

薬袋委員長：どうすればボランティアが維持管理に係わりたいという気持ちを持ってもらえるか、一年間の内で一週間しか楽しめない桜の花だけでは厳しいものがある。何らかの付加価値を付けて、幅広い活動の中で取り組めば参加者も見込めるかもしれない。

安 本 委 員：２～３年前に、新明里橋～花月橋間で足羽川のゴミ拾いを兼ねて高校生のウオークラリーをしたことがあった。このときは、100ｍも歩かないうちにゴミ袋が一杯になってしまった。ゴミ拾いは、小学生だけは負担が大きいので、中学生や高校生にも呼びかけて協力してもったほうが良い。

今 井 委 員：新しく生まれ変わった桜並木の維持管理については、県や市にやれと言うよりも、

住んでいる住民やその地区で体制を考え実施した方が、桜は守られる。各地区で専門家を養成していくとか、理解ある方に依頼してリーダーシップを取ってもらう等、核づくりが重要である。虫や鳥をある程度理解する人が地域にいることにより、正しい情報が伝わると思う。子供の自然教育を実施しているグループも多くある。例えば県からの委託を受けている緑のサポーター養成研修や森林インストラクター認定を受けた方等が、各地域で活動している。どこにどのような組織があるのかを整理して、その中から桜を守っていくための組織づくりができないか。日本一の桜を目指して、正しい知識と継続する力を持ったプライドのある最低限度の組織づくりは必要である。

上 村 委 員：春まつりのアンケートで清掃活動に協力できると答えた人が半数以上いたが、足羽川の桜の管理に関するＰＲを十分に行えば、自分も含めて協力できるボランティアは多数集まってくると思う。また、参加者にポイント制を導入して、例えば 10 ポイントで 500 円の図書券というようにすれば、参加意欲も高まると思う。

平 井 委 員：「桜学」を企画して、日本人はなぜ桜にこだわるのか、虫はなぜ桜の葉を好んで食べるのか、川や海に流れ出た葉を食べる貝やプランクトンのこと等、日本人と桜の関係や桜と川や海の生物との関係を学ぶことで、桜の見方も変わり、桜を愛する気持ちも深くなるのではないかと思う。

薬袋委員長：「自己実現」という言葉を私はよく使うが、自分なりにこうしたいというきっかけをうまく散りばめ、それぞれの関心のある所で色々な人が参加する気持ちを持てるようにした方が良いと思う。

石 川 委 員：管理に関するアイディアは色々あるが、問題はアイディアや活動をどこが推進していくかである。商工会議所青年部もかつて、パトロールや足羽山の植樹に関わったが、桜のみを専門的に取り扱う団体ではないため、事業の継続性も問題などがあった。新しい桜並木になるのを機に、これまで関わってきたドラゴンリバー交流会や青年会議所などの団体が中心になって、新しい組織を作っていく必要があると思う。

内 藤 委 員：行政主導の管理組織よりも、市民による活動から湧き上がってきた組織の方が長続きすると思う。まずは住民で共同花壇を作るなど地道な活動から始め、それが堤防の清掃へと意識が高まっていくようになると良い。また、市の対応も重要である。桜に関する市の所管は、足羽山は公園課、足羽川は観光課と河川課などと別々になっているが、一元化した方が効率的な管理ができて良いと思う。

朝 倉 委 員：石川委員と同じ意見で、誰が管理していくのかが大きな問題である。これを機に既存団体が中心になることが一番現実的であると思う。管理財源として、足羽川の利用者から使用料を集めたらどうか。

事　務　局

（岩本課長）：高水敷は市の担当課が河川管理者の県から借りているもので、利用者からは現在お金を徴収していない。新しい桜並木についても、市が県から借りる形になる。

中 山 委 員：新しい桜並木は市民皆で守っていく方が望ましいと思う。また、激特工事の対象外となる区間の桜堤は、将来どうする方向なのか確認したい。

事　務　局：桜橋から下流の区間に関しては、今後市と調整する。

事　務　局
（岩本課長）：桜のトンネルは景観的にも良いので、福井市としては、桜橋から下流の区間は、できる限り残していきたいと考えている。
薬袋委員長：ただ桜の清掃活動をするだけのボランティアを集めるというよりも、幅広く足羽川全体を楽しむ方向で、既存の活動団体が中心になり、新たにネットワーク組織を立ち上げる。そして行政とともに、より多くの人達に参加してもらえる仕掛け作りをしながら、維持管理体制を整えていくという提案を盛り込んでいく。また、桜だけに限らず、足羽川全体を楽しむという中で、どうしたら市民に関心を持ってもらえるか、別途検討する方が良いと思う。

【その他について】
吉 岡 委 員：新しい桜並木の更に新しい魅力づけとして、沿川道路を石畳みにして雰囲気を高める等、堤防と道路の一体的な整備の検討はできないか。
事　務　局
（岩本課長）：インターロッキング舗装などは、除雪で壊れることが多い。春先に補修し易いものが要求されるので、舗装はアスファルトになってしまうのが実情である。
薬袋委員長：地域の合意ができていると、行政側も意見を取り上げやすいはずである。色々な組織の方に声を上げて頂き、桜を見守る会など、力を合わせた早期の組織の立ち上げを期待したい。

・撤去する桜の有効利用の検討について
事　務　局：（資料－４の説明）

【桜の有効利用について】
橋 本 委 員：来年の春まつりには、撤去した桜の枝で刻印等をデザイン化して作り浄財を稼ぎ、桜堤をサポートする基金に少しでも協力できればと思っている。
薬袋委員長：ＮＰＯもいかにビジネスをして、組織を継続するかが一番の課題である。情報交換する中で、新しいアイディアを出していってほしい。
藤 井 委 員：ベンチも傷んだり水害で流されたりして、ほとんど無い状態なので、足羽地区の文化祭等のイベントを利用して、撤去した桜でベンチを作りたいと思う。
薬袋委員長：最大限活かせるものは活かし、木材として使えるものは使っていく方向で進めることとし、実際は工事を担当される方の裁量に任せることにする。

３．事務局からの連絡等
事　務　局：次回の協議会は、７月下旬で日程調整する。

４．閉　会

以上